

報告者名・所属	大束貢生 佛教大学総合研究所 研究員・佛教大学社会学部
概要 (会名、開催地または 開催形態、開催日、主 催者等)	佛教大学総合研究所共同研究 常設研究「南丹市の地域社会と 佛教大学の地域連携活動に関する研究」第5回Zoom報告会 Zoom開催 2021年3月17日
URL	https://www.bukkyo-u.ac.jp/labo/activity/project/kondo.html

学校を中心とした美山の地域づくり

佛教大学社会学部 大束貢生

美山での先生と地域の人々が学校運営について考える取り組みを紹介しつつ、大学のサポートのあり方について考えます。

①学校を中心とした地域づくり

→地域における橋渡し型ソーシャル・キャピタルの機能が醸成

②美山小学校・中学校の活動

→美山小学校の熟議：

ネットワークとしての「体制づくり」→互酬性規範を高める「活動づくり」

→旧村ごとの結束型ソーシャル・キャピタル +

学校を中心とした新たな橋渡し型ソーシャル・キャピタルの醸成の可能性

③大学のサポートのあり方

→地域・大学・行政の連携

→ソーシャル・キャピタルの醸成

= 「体制づくり」「活動づくり」「関係づくり」

学校を中心とした地域づくり①

文部科学省のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）構想

・コミュニティ・スクールとは？

「保護者や地域住民等がともに知恵を出し合い学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み」

→「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて設置

公立小・中・高等学校に保護者や地域住民が委員となる学校運営協議会を設置

市町村あるいは都道府県教育委員会が指定

・学校運営協議会制度であるコミュニティ・スクールは、

地域住民が学校と連携することによって、地域住民の個人的な有用感や生きがいに加え、

学校を中心とした地域ネットワークや絆の創出につながることが期待されている

* コミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）

地域学校協働本部（学校を核とした地域づくり）

→学校教育と社会教育の協働による「生涯教育社会」という地方創生を担う

学校を中心とした地域づくり②

地域住民による主体性の場としての「熟議」

子供の教育に対する責任を地域住民が家庭や学校とともに分担するために

→「公助」を期待する「受け身の意識」から

「互助・共助」の視点で自ら生活する地域を創る地域住民の「主体的な意識」に転換していくことが必要

* 地域住民が「学び」を通じて新たな関係を作り、それぞれで考え、成長していくことが必要

「熟議」「協働」「マネジメント」という機能

「熟議」：よりよい学校生活や人間関係を築くために「協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を
「話し合い」を重ねながら生み出そうというもの

- ①多くの当事者（保護者、教職員、地域住民等）が集まって、
②課題やビジョンについて「熟慮」し、「議論」することにより、
③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
④それぞれの役割に応じた解決策や方策が洗練され、
⑤それぞれが納得して自分の役割を果たす

「協働」：「熟議」の実施により学校と地域の信頼関係の基礎を構築し、学校運営に地域の人々が「参画」し、
共通の目標に向けて「協働」して活動

「マネジメント」：校長のリーダーシップのもと、
目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営を管理
地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく力が必要

学校を中心とした地域づくり③

地域ネットワークや絆の創出＝ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の醸成

- ・ パットナム：調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、
信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴を意味する用語（Putnam, R. D, 1993）
 - 互酬性の規範：「情けは人の為ならず」「持ちつ持たれつ」「お互い様」
 - ネットワーク：人やグループの間の絆
- ・ ソーシャル・キャピタルのタイプ
 - 結束型「家族や親友、隣人、自治会といった同質的な利害や背景をもつ人びとの固い結びつき」
 - 橋渡し型「異質な利害や背景をもつ人びとのゆるやかな結びつき」
 - 連結型「社会階層の異なる個人や集団間の結びつき」
- ・ ソーシャル・キャピタルの醸成
 - ネットワーク＝「体制づくり」、規範＝「活動づくり」、信頼＝「関係づくり」を通じ醸成

学校運営協議会と教育活動での教職員と保護者や地域住民間のコミュニケーション

→教職員と地域住民間のソーシャル・キャピタルの形成を促す

地域における橋渡し型ソーシャル・キャピタルの機能が醸成

美山小・中学校の活動①

美山小学校：2016年度コミュニティ・スクール推進校

2018年度コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）設置

→2016～2018年度で計6回の熟議を行い議論

熟議参加者：美山小中学校教職員・コミュニティ・スクール推進委員・学校運営協議会委員、

美山中中学校学校評議員、美山まちづくり委員（地域振興会会長兼任）

南丹市役所職員、美山小学校保護者（PTA運営委員）

少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進委員など

熟議の内容：ワークショップ

テーマについて各自の思いをA5用紙や付箋に書き、模造紙にまとめ、発表

熟議のテーマ：「美山の子どもたちにどう育ってほしいか」

「子どものよさをとらえて地域と学校でいっしょに取り組めることを考えよう」

「さらに伸ばしたい力について具体的な方策を考えよう」

「子どもたちに学ばせたい美山ことを考えよう」

「美山の子どもたちにどんな社会人になってほしいか」

「美山の地域の力をどう生かすのか」

美山小・中学校の活動②

美山小・中学校のコミュニティ・スクールの可能性

・美山町の課題

旧美山町は昭和の大合併として1955年に知井村、平屋村、宮島村、鶴ヶ岡村、大野村が合併することで誕生したが、美山町となっても旧五村はそのまま地区として置き換えられ、現在でもこの地区が地域振興会や旧農協施設店舗を始め、地域行事や祭りごとの単位となっており、多くの住民の帰属意識は美山町でなく旧五村にある（堂下 2012：8）

感覚が五つとも違う旧五村の対抗心は想像以上に強く、美山町以外の町村からはあきれられるぐらいのものであったという（湯川 2018：268）。

・コミュニティ・スクール設置の結果

教育に対して学校任せであった、あるいは学校に遠慮していた地域の人々が、地域の子もたちのために主体的に学校と協力して何ができるのかを考える場として機能し始めた

→人々が関わり合うためのネットワークとしての「体制づくり」を通じ

「地域とともにある学校づくり」の主体であるとの意識が生じた

美山小・中学校の活動③

旧村を統合した美山小・中学校のコミュニティ・スクール

互酬性規範を高める「活動づくり」、信頼を高める「関係づくり」

→旧村の境界を突破した地域住民間のソーシャル・キャピタルの醸成につながる可能性

旧村のソーシャル・キャピタル＝結束型ソーシャル・キャピタル

コミュニティ・スクールを介して醸成＝橋渡し型ソーシャル・キャピタル

* 地域振興会に存在していた結束型ソーシャル・キャピタル

+ 美山まちづくり委員会に存在していた橋渡し型ソーシャル・キャピタル

加えて、美山小・中学校を中心とした新たな橋渡し型ソーシャル・キャピタルが醸成

地域振興会と美山まちづくり委員会をはじめとして

さまざまな美山町内にある地域団体やNPO団体がつながることができるようになるかもしれない。

美山小・中学校のコミュニティ・スクール

人々が関わり合うためのネットワークとしての「体制づくり」

→互酬性規範を高める「活動づくり」

熟議による活動：旧村ごとの結束型ソーシャル・キャピタル +

学校を中心とした新たな橋渡し型ソーシャル・キャピタルの醸成の可能性

大学のサポートのあり方について

大学の地域・社会貢献の重要性（2012年文部科学省中央教育審議会答申）

①学生のヒューマンパワー：人的資源

②教員（研究者）の研究の還元：知的資源

→定住人口、交流人口、関係人口の増加にどのように寄与するのか？

授業を通じた学生の地域での活動による地域社会のメリット・利点とは？

行政を介しての要請→地域社会の学生受け入れの目的意識が希薄

→大学生が地域で活動する目的が分からず学生を受け入れることへのとまどい

地域・大学・行政の連携

→ソーシャル・キャピタルの醸成＝「体制づくり」「活動づくり」「関係づくり」

地域社会が期待する学生の活動が可能＝地域社会のメリット・利点

担当教員の巻き込み方

- 参考文献

堂下恵, 2012, 『里山観光の資源人類学－京都府美山町の地域振興』新曜社.

湯川宗紀 2018, 「第11章 平成の大合併－美山町から南丹市へ－」田中滋編『都市の憧れ、山村の戸惑い－京都府美山町という「夢」』晃洋書房, 259-275.

大束貢生, 2019, 「学校を中心とした地域活性化の可能性について－コミュニティ・スクールとソーシャル・キャピタルの関係から－」『佛大社会学』（43）, 34-44.

-----, 2020, 「学校を中心とした地域活性化の可能性について－南丹市美山町でのコミュニティ・スクールの展開から－」『佛教大学総合研究所紀要』（27）, 65-78.

-----, 2021a, 「アクティブ・ラーニングと大学改革に関連した研究の動向」『総合研究所成果報告論文集』（8）, 印刷中.

-----, 2021b, 「授業での学生の活動が地域社会に与える影響－受け入れ団体の語りから－」『総合研究所成果報告論文集』（8）, 印刷中.

-----, 2021c, 「授業での大学の活動が地域社会に与える影響について－A市での活動を事例にして－」『総合研究所成果報告論文集』（8）, 印刷中.

ご清聴ありがとうございました

